国指定重要文化財（昭48.6.6）

おもろさうし

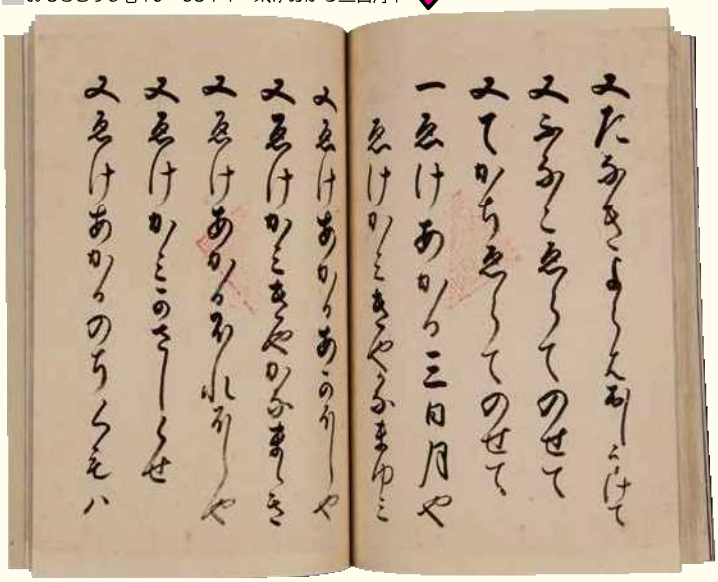
22冊 全22巻1553首 各冊縦29.6～30.0cm 横21.8～22cm

おもに平仮名で表記されているんだね。でも、難しくて読めないな。

当時の琉球の人々の言葉を平仮名と漢字で表記しているんだ。まだ、わからないことがあって、多くの研究者が解明を進めているんだ。

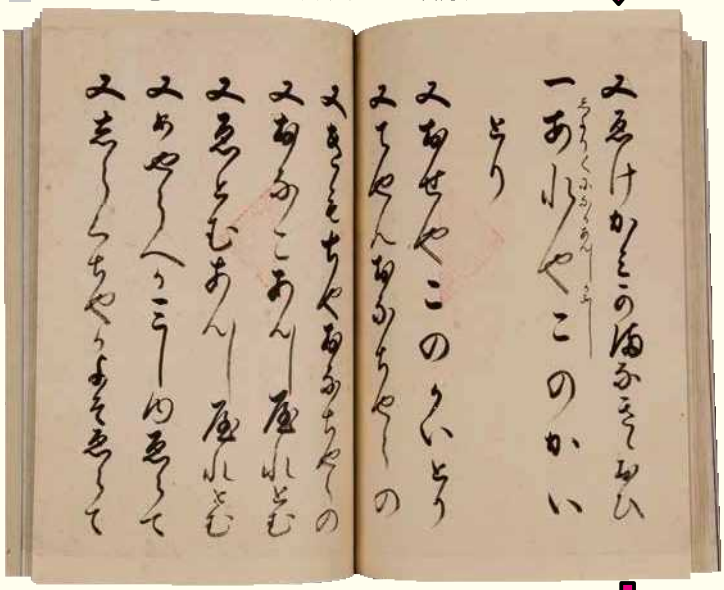
書跡典籍 いにしえの人々の思いをつづった歌謡集

おもろさうし巻10　534-1　ゑけあがる三日月や



ゑけ　上がる三日月や
ゑけ　神ぎや金真弓
又ゑけ　上がる赤星や
又ゑけ　神ぎや金細矢
又ゑけ　上がる群れ星や
又ゑけ　神が差し櫛
又ゑけ　上がる貴ち雲は

おもろさうし巻10　534-2　ゑけあがる三日月や



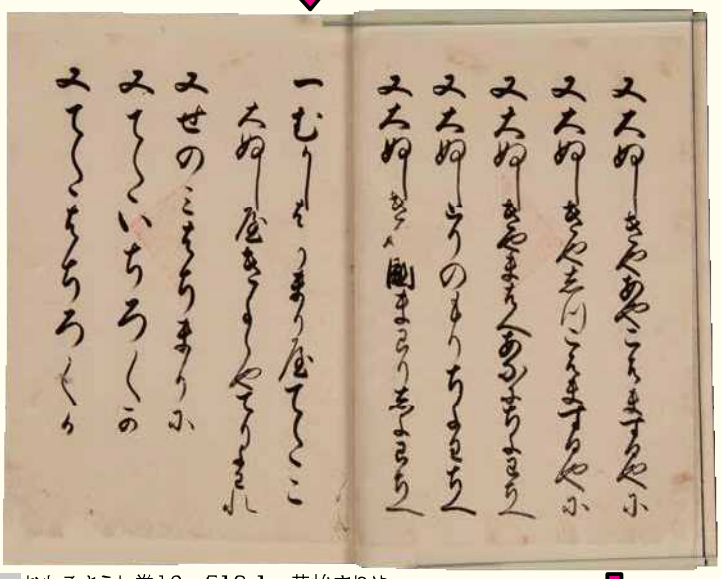
又ゑけ　神が愛きゝ帯

ゑけ、上がる三日月は、ゑけ、神の金真弓（立派な弓）である。ゑけ、上がる赤星（金星）は、ゑけ、神の金細矢（立派な矢）である。ゑけ、上がる群れ星は、ゑけ、神の差し櫛である。ゑけ、上がる虹雲は、ゑけ、神のたいせつにしている美しい帯である。

沖縄と奄美に伝わる神に捧げる歌を「おもろ」と言います。これを首里王府が集めて編集した現存する沖縄最古の古謡集を『おもろさうし』と呼んでいます。全部で22巻あり、収録された歌は1554首、重複しているものを除くと、1248首になります。それぞれの巻の編さんは、第1巻が1531（嘉靖10）年、第2巻が1613（万暦41）年、第3巻～第22巻は1623（天啓3）年です。

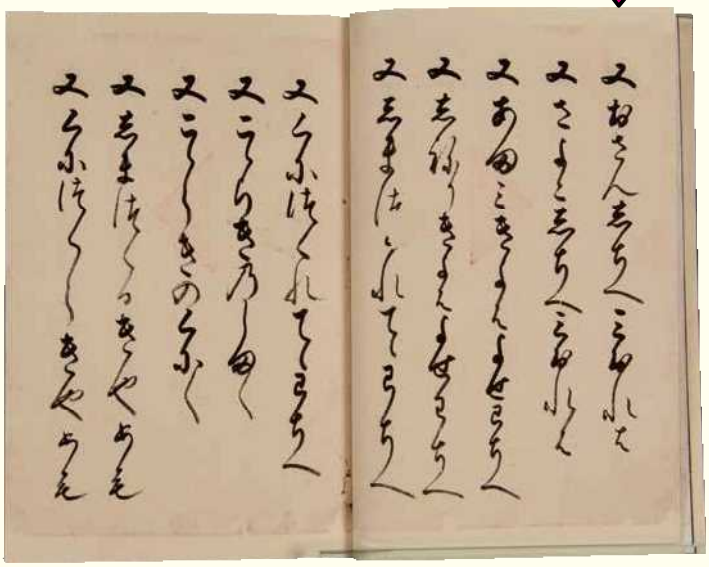
『おもろさうし』の原本は、1709（康熙48）年に起きた首里城の火災により焼失しましたが、その翌年、具志川家に残された「具志川本」をもとに再編さんが行われました。現在残っているものは、その時に作られたもので「尚家本」と呼ばれています。全22巻のうち2、9、15、19巻の4冊は大正時代に欠けた部分を補って写したものです。大正時代に写されたものを除く各冊は、花菱文焦茶表紙で装丁され、用紙は唐紙が使われ、本文は1ページずつ5行の仮名まじり文です。

沖縄戦の最中、米軍が戦利品としてアメリカに持ち去りましたが、1958（昭和33）年に日米関係者の尽力により、沖縄に返還されました。古い文献が少ない沖縄において『おもろさうし』は、沖縄の古代を探る上で貴重な資料です。



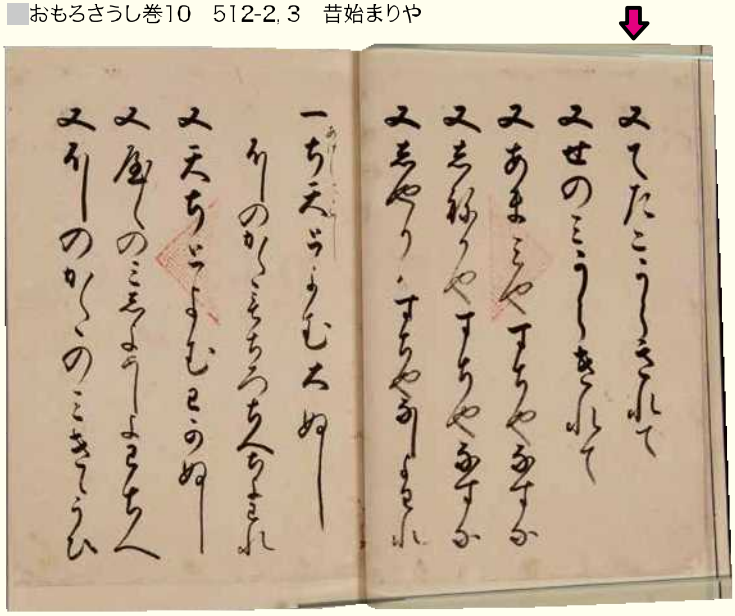
おもろさうし巻10　512-1　昔始まりや

一昔初まりやてだこ
大主や清らや　照りよわれ
又せのみ初まりに
又てだ一郎子が
又てだ八郎子が



おもろさうし巻10　512-2, 3　昔始まりや

又おさんしちへ　兄居れば
又さよこしちへ　兄居れば
又あまみきよは　寄せわちへ
又しねりきよは　寄せわちへ
又島　造れてゝ　わちへ
又国　造れてゝ　わちへ
又こゝらきの島々
又こゝらきの国々
又島　造るぎやめも
又国　造らぎやめも



おもろさうし巻10　512-4　513-1　昔始まりや（右頁）、あけしのが節（左頁）

又てだこ　心切れて
又せのみ　心切れて
又あまみや衆生　生すな
又しねりや衆生　生すな
又然りば　衆生　生しよわれ

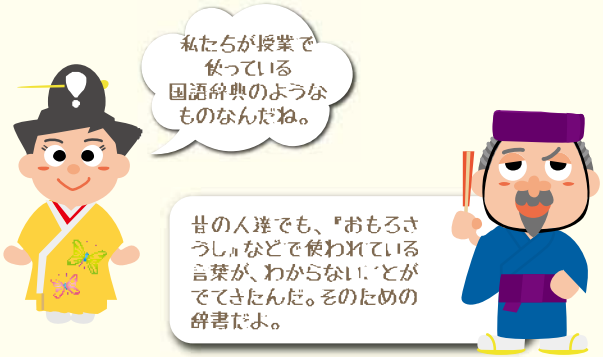
昔，せのみ初まりに，太陽神一郎子、八郎子が、高所から見下ろし、鎮座して見ていると、下界がなかなか出来上がらない。太陽神は、あまみきよ・しねりきよを呼び寄せ給いて、島を、国を造れといって、島、国を造らせたが、たくさんの島々、国々がなかなか出来ない。島を造り、国を造るまでも、太陽神は待ちわびて仰せになるには、あまみや・しねりやの末裔を生むな。さあれば、正しい筋の末裔を生み給え。太陽神は美しく照り給えり。

【引用】
外間守善校注，2000年，「おもろさうし　上』，岩波書店

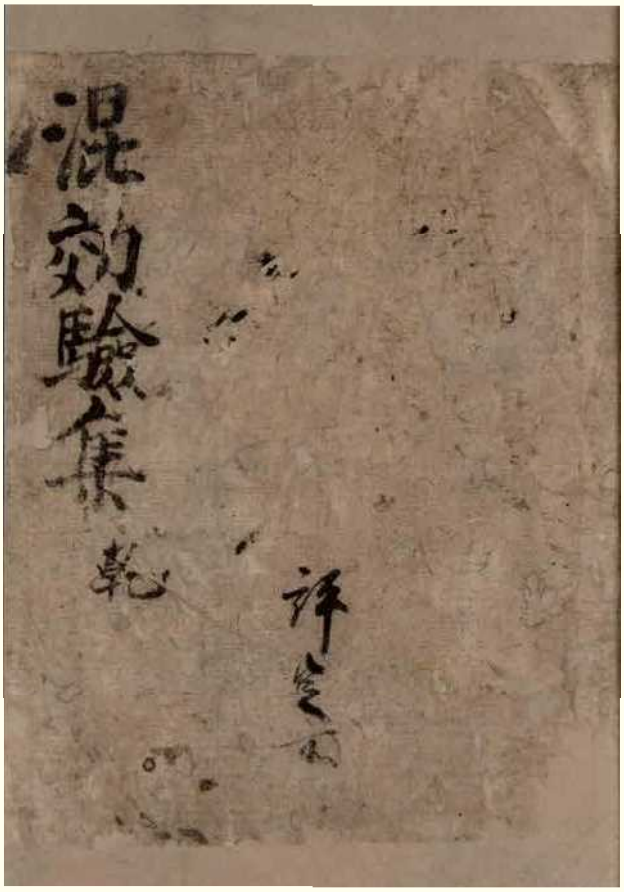
国指定重要文化財（昭48.6.6）

混効験集

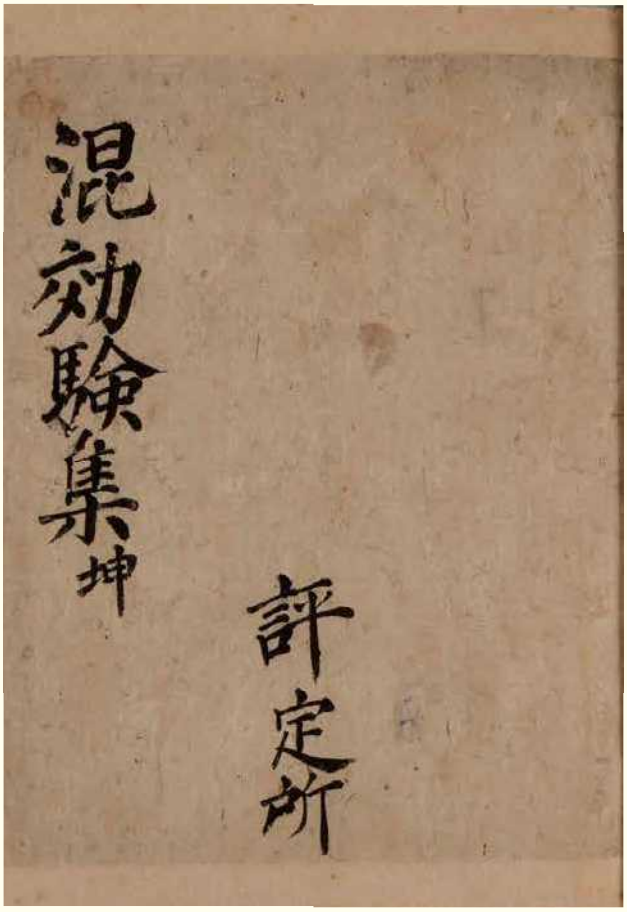
2冊 縦25.5cm 横20.0cm



琉球の言葉のルーツを探る



混効験集　乾巻



混効験集　坤巻

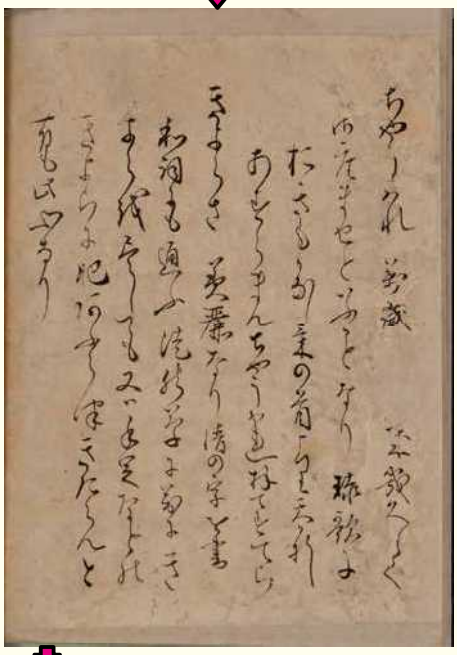
琉球王府が編さんした全2冊の古語辞典で、「内裏言葉」という副題がついています。尚貞王の命令で編さんが始められ、1711（康熙50）年に完成しました。前年には『おもろさうし』の書き改めが行われており、松村按司、識名盛命などの和文学者が、双方の編集に関わったと言われています。

語句は『おもろさうし』から採ったものが多く、他に『源氏物語』『伊勢物語』『徒然草』等からの引用もあります。内容は、王府の宮廷古語、おもろのことば、古い伝承を持つ歌を収録して和文で解説したもので、琉和辞書の形になっています。

構成は各巻とも部門別に分けられ、乾の巻は、乾の乾坤・人倫・時候・支体・気形・草木・器財・家屋・衣服・飲食・言語の11部門、坤の巻は、家屋を除き、神ぎ・数量を加えて12部門からなっています。

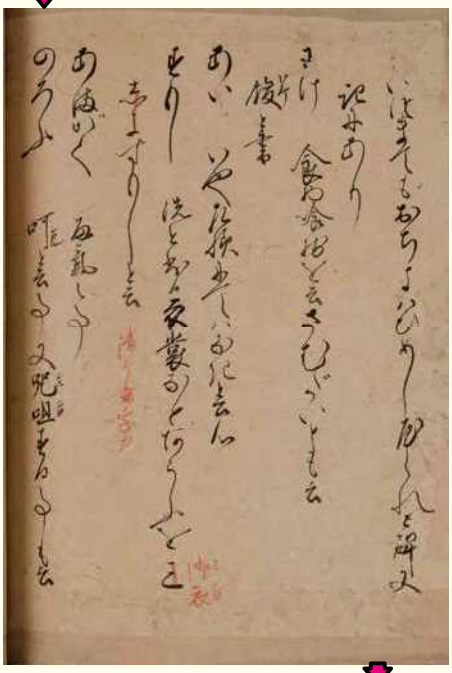
【収蔵機関】沖縄県立博物館・美術館

きよらさ　美麗なり。清の字を書。
和詞にも通ふ。徒然草に「萬にき
よらを尽くしても」又は「手足などの
きよらに肥あぶらつきた
らん」と有此の心なり。



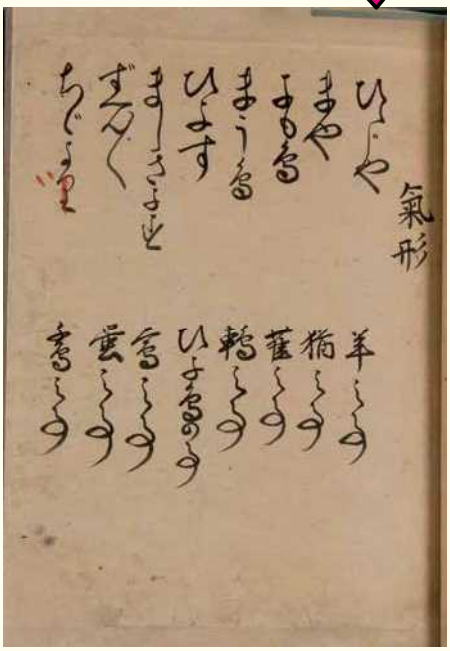
きよらさ

のろふ　阿(シカル)と云事。又呪詛
(ジユシヨ)する事も云。



のろう　ぬーられる

ひゝじや　羊之事。
まや　猫之事。
よも鳥　雀之事。
まう鳥　鶉之事。
ひよす　ひよ鳥の事
ましきよす　鶯之事。
ずへんゝ　蛍之事。
ちゞよ(い)　千鳥之事。



ヒージャー

【引用】池宮正治.1995年.「南島文化叢書17　琉球古語辞典混効験集の研究」.第一書房